

平成26年度

聖母の家学園の進路支援

特別支援学校聖母の家学園

進路支援委員会

目次

- ① 聖母の家学園 進路支援の特徴
- ② 進路支援の流れ
- ③ 進路に関わる学習活動
- ④ 施設生の進路支援
- ⑤ 保護者と共に拓く進路
- ⑥ その他 (計画相談と就労継続支援B型への就労)

① 聖母の家学園 進路支援の特徴

- A) 働くことだけでなく、生活全般を見すえた支援
～学生時代にしかできないこと～
- B) 小学部から専攻科へ 14年間の進路支援
～変わらない、よく知っている人たちと共に～
- C) 本科から専攻科へ高等部5年間の進路支援
～専攻科の2年間が持つ強み～
- D) 卒業・修了後のアフターケア
～変わらない、よく知っている先生と末永く～

A) 働く事だけでなく生活全般を見すえた支援

三重県は、雇用率が最下位ということで、県をあげて、雇用率を上げるための働きかけが盛んにおこなわれています。そこで、『就労コース』を作ったり、教科学習を減らして、作業学習、職場実習、デュアルシステムなど、働くためのスキルアップに多くの時間を費やしています。それでもまだまだ時間が足りない！という声も聞かれます…

ところが現実には、どこの学校でも福祉サービスを利用する進路を希望するケースの方が多いのです。



学生時代にしないといけないことは？

★ 学生時代にしかできないこと

集団で取り組む『教科学習』の大切さ

- ① 校外学習などの実体験を伴った多角的な取り組み
興味関心、意欲、経験、考える力、自己表現
- ② 失敗体験の中で自分を見つめ直し、成功体験の
中で自信を付けていくこと！
- ③ 友だちや仲間との集団での取り組み→思い出作り
コミュニケーション力の向上
- ④ 働き続ける“生活”を支える力
『働く意味や余暇の充実(ストレスとの付き合い方)』

※ さらなる学びの必要性が、学びの作業所設立へ！

B) 小学部から専攻科へ～14年間の進路支援

～変わらない、よく知っている人たちと共に～

本校は、職員の大きな移動がありませんので、小学部時代の姿を知っている先生が専攻科修了まで最長で14年間、引き継いで行くことができます。

(キャリアプログラム)

実際は学部が違ったりしても、小規模な学校なので、他学部の様子も分かる部分があります。情報を全職員共通の認識としながら、学部ごとの成長を把握することができます。このような長い視点で成長、変化を捉え、社会へ移行していく支援が可能です。

そして、何より馴染みのある友だちや仲間と共に成長していけることも、大きな魅力といえます。

C) 本科から専攻科へ 高等部5年間の進路支援

～専攻科の2年間が持つ強み～



専攻科の2年間があるから 本科時代の思春期の心の揺れに焦らずじっくり対応でき、自分の良い部分もそうで無い部分も出しながら、学習課題に取り組めます。まさに“学生時代にしかできないこと”にじっくり取り組めるのです。そして、19歳20歳を迎える専攻科生の年齢からくる落ち着きと、カリキュラムとのマッチングがよりスムーズな社会参加への移行を実現させます。

D) 卒業・修了後のアフターケア

～変わらない、よく知っている先生と末永く～

・卒業・修了生の状況把握

職場訪問・保護者との連絡・同窓会・余暇活動支援事業などでの把握

・個別移行支援計画に沿ったの支援

就労先・行政(福祉課)・コーディネーターなどとの連携による今後の課題を整理

・『教育生活支援センターふれあい』との連携

何年経っても変わらない、在学時代を知っている職員が、末永く社会生活を支援します。 公立は基本3年間

② 進路支援の流れ（キャリア教育）

毎日の生活の中で、人や社会との関わりの中で自らの役割を果たす『積み重ね』を“キャリア”と言います。児童生徒は経験や体験を通して自信を持ったり、また時には不安や迷いを抱いたりすることがあります。

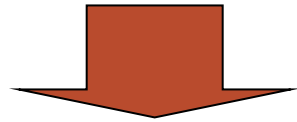
新しい事柄を積み重ねる時は、生活年齢や発達段階、障がいの程度に応じた正しい積み重ねが大切です。それらを整理し、キャリアの視点で14年間教育の流れを考え、授業実践に活かし、個々の課題を把握し共通理解する中で、上手く積み重ねていけるようにしていきたいです。

個に応じた適切なキャリア教育は、社会的、職業的自立のために必要な力や態度を育み、自己実現への力（ステップアップ）となります。

★ワークキャリア と ライフキャリア をバランス良く！

I 小学部・中学部

基本的な生活習慣、基礎的な学力や体力、仲間意識や社会性を身につけていくための土台を作る時期。

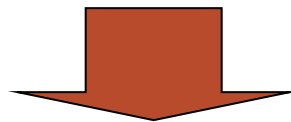


- ・ いろいろなことを経験する中ですこやかな心と丈夫な身体を育て、自分でできることを増やしていく。（サポートを受け入れる気持ちも育てる）
- ・ 友だちや先生と一緒に取り組む楽しさを知る。
- ・ 生活場面の一つひとつを大切に、良くない癖や生活スタイルが強く固まる前にじっくり取り組む。
- ・ 少々羽目を外しても、自分を出し、それを受け止めてくれるという経験をしておくことが大切。

Ⅱ 高等部 本科（1・2年生）

友だちや職員との関係も広がり、様々な刺激を受ける中で、青年期の新しい課題（コミュニケーションや金銭、性の問題、余暇の過ごしなど）が生まれてくる時期。

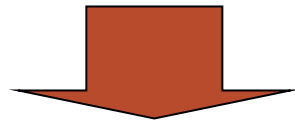
青年期中期（思春期後期）の心の揺れが現れる時期でもあります。そんな時期を慌てず、じっくりと向き合って対応していきたいです。



- 学校生活を通して好きなこと得意なこと、自信の持てる活動を増やす。（認めてもらえる安心感）
- 自分を表現することの必要性や気持ちよさを知る。
- 少しずつ社会との関わりを深め自分が将来社会へ出ていくイメージを育てる。

Ⅲ 高等部 本科（3年生）

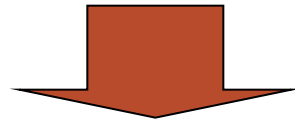
学校生活に慣れ、いろいろな場面で自信を持って表現できたり、行動できたりすることが増え、興味関心も広がりやすい時期。青年期中期（思春期後期）の心の揺れから、少し自分の世界や居場所を見つけられるようになります。ここであと一年で社会へ…では、慌ててしまいますが、専攻科があるので、この心の成長の中でさらに経験を重ねていきます。



- ・ 教科の学習を通じて基礎学力や考える力を養い、将来の進路選択（自分で決める）や社会生活につなげる。
- ・ 実習の中で働くスタイルを体験し、自分の進路についての現実的なイメージを育てる。
- ・ 様々な経験の中で興味関心を広げ、余暇の充実につなげる。

IV 高等部 専攻科

19才20才になった自分自身を再度見つめ直し、気づいた長所は更に伸ばし、苦手なところはどんな援助をしていったら良いか、具体的に整理する時期。年齢からくる落ち着きや成長が大きい2年間！



- ・ 仲間同士の関係を深め、その中で自分の存在を知る。
- ・ 自分の進路希望を話し合いや懇談の中で整理する。
- ・ 通所・通勤方法、休日の過ごし方、給料や年金の使いみちなどのイメージを深めつつ、周囲の援助の方法を整理していく。（それぞれ難しい場合は援助者と共に進める）

よりよい進路選択のためには、支える手立てを明確にする事が求められます。

③ 進路に関わる学習活動

- a) 進路学習会 (高等部のみ)
- b) 余暇活動 (高等部本科のみ)
- c) 総合 (全学部)
- d) 進路ガイダンス (高等部一般就労希望者のみ)
- e) 進路懇談会 (高等部本科3年生以上)
- f) 校内実習 (高等部本科のみ)
- g) 職場実習(体験) (高等部本科3年生以上)
- h) 職場実習(就労) (就労希望年度の生徒)
- i) 進路ニュース & あしたをめざそう!
- j) 支援センター学習会(保護者と本科以上希望者)

a) 進路学習会



高等部卒業後の進路に関する学習を進めるために、本科・専攻科混合で生徒の出身地域を基本にグループ分けをして構成しています。各地域の福祉施設・卒業生の進路先見学・履歴書作成や面接体験・公共交通機関や公共施設の利用・行政の担当者をお交えての学習会・身だしなみ・マナーなど、年間2回に分けて取り組んでいます。





b) 余暇活動

アウトドア



この学習は「総合学習」として位置づけ、余暇活動の充実をめざし、そのきっかけ作りとなるように取り組んでいます。

この学習は一日通しての活動です。昨年度は「カラオケ」「スポーツレク」「調理」「アウトドア」「映画」の5講座でした。内容やグループ数は年度によって変わります。今年度から年間2回取り組みます。自分で好きな取り組みを選択し、希望を元にグループ編成をします。



カラオケ



映画





スポレク



調理

c) 総合的な学習の時間

小学部から教育課程に盛り込まれている教科で校外での学習や交流、英会話、おしゃれ講座、余暇、専攻科のテーブルマナー講習などもこの教科にあたります。



学園から社会へ出て公共交通機関や施設を利用する中で、将来就労し社会へ出るために必要な力を知ることや、学園内では見えない課題を見つけることができます。

校外学習



2014/01/24 10:27



おしゃれ講座







英会話



また、社会人として必要とされるルールやマナーなどの部分も取り上げ、みんなで取り組む経験を重ねる中で課題を少しずつでもクリアできるように進めています。



テーブルマナー講習会





d) 進路ガイダンス

生活や仕事、余暇について、学生時代に身に付けておきたいスキルなどを、ハローワークの専門支援員などから話を聞いたり、実践したりして進路についての意識を育てていきます。

内容	対象
ハローワークの指導官による、職業ガイダンス	一般就労を希望する高等部本科、専攻科生徒と、専攻科保護者



e) 進路懇談会

現在の生活から、将来の卒業・修了後の生活に向けて、本人・保護者・学校・福祉課・支援センターその他関係機関と懇談会を持ちます。生活・仕事・余暇・地域活動など生活全般に関して、今から支援できること、支援の準備が必要なことを明らかにしていきます。

また、この懇談会の内容を基に個別移行支援計画を作成していきます。個別移行支援計画は、本科1年生からクラス担任が作成していきます。本科1・2年始の段階では日常生活を中心に、本科3年生からは職場実習や地域での活動も含めて支援計画を組み立てていきます。

学年	実施時期	目的
本科3年生	8月	職場実習を含めて、日常生活の課題整理。
専攻科1年生	8月	就労や社会人へ向けての意識を高める。
専攻科2年生	5月	卒業後の生活へ向けて具体的な支援作り。

県外出身生徒・施設生の実施時期は、この通りではありません。

f) 校内実習（前期・後期の年2回）

校内実習は、「働く活動」を位置づけるため、職場実習と並行して実施しています。期間を今年度から4日間に延長しました。同じ仲間と見通しを持ちやすい活動を継続して行います。

作業内容は、本人の希望を基に決めていきます。また、働く生活スタイルを家族と共に考える機会としても大切に考えています。

実習中の4日間は、生活のリズムや作業に関わる家庭での準備などをできるだけ主体的に取り組めるように声かけなどのサポートをお願いします。日誌への記入等の協力もお願いします。

※作業種目に変更することもあります。

- ①リサイクル：アルミ缶回収と缶つぶしをして、業者に販売する。
- ②軽作業：紙漉で、カレンダー表紙の製作や堆肥などを作ります。
- ③惣菜屋：昼食用の惣菜(おかず等)を作り、各作業グループに納める。
- ④クッキー：クッキーの予約販売を行う。



リサイクル





軽作業





惣菜





クッキー

g) 職場実習（体験実習）



職場体験実習は、作業所や会社など、希望する職場での実習です。就労することを前提とするのではなく、「働くスタイル」を学ぶことを大切なねらいとしています。身だしなみやあいさつ、職場でのコミュニケーションも重要なポイントです。

職場実習は、本科3年生から始まります。校内実習や進路学習会などを経て、自分の地域の作業所や会社などで、実体験を通して学びます。作業だけではなく、家族の支援や生活の組み立てなども考えていきます。





h) 職場実習（就労実習）



学年	回数(年間)	形態
本科3年生	1回	体験
専攻科1年生	2回	体験
専攻科2年生	2回	就労

6月・8月・10月に2週間ずつ実習期間を設定。
専攻科2年生は、就労が決まるまで随時実施します。

就労に向けての実習は、大きく一般就労と福祉サービス利用とに分かれます。一般就労は、ハローワークや就労支援センターなどの協力を得ながら進めます。福祉サービス利用はコーディネーターなどからのアドバイスをもらいながら進めていきます。A型はその中間的な存在。





i) 進路ニュース

進路に関する情報や活動予定などを掲載し、基本的に月1回発行しています。家庭・保護者向けの内容ですが、親子で読んで進路の参考にしていきます。



SKさん



グリーンランド
〒700-0001 岡山県岡山市東区2-2-1

進路ニュースNo.2

2023.5.21(水)
第1回卒業生
進路相談会

開催時間 準備はO.K.～

はたらく先輩・がんばるセンパイ!

校内実習 本科生のみ
5月22日(水)～23日(木)
これまで日頃の学びを凝縮して、グループ活動を通して実践力をつけていく。今年度から4日間の集中実習と行われ、「働くスタイル」を少しずつ体験し、就職に向けての準備を進めていく。

進路相談会 基本的に専攻科2年
5月23日(水)～23日(木)
この日の開催目的は、進路希望者がいる中で、本人・保護者・進路アドバイザー・就職・その他関係者等との間で進路に関する質問・交流を行い、方向性を共有することで、今後の進路の決定に役立ちます。質疑応答も受けられることとなります。45分間の相談の後はありますが、質疑応答の時間には限りなく、細かい質問や相談なども、尋ねたいことを質問して頂くことで、進路の決断の中で迷っている方も相談出来ます。

第1期 職場実習 に向けて (5月19日(月)～21日(水))

それぞれ所属先の業務内容や環境など、思いを凝縮して話したいと思います。演習期間の研修などで、仕事のやり方や環境、服装、持ち物などに関する質問も受け付けます。尚ほこれにてお気づきない点や不明な点などありましたら、事前に所属先へお電話でご確認ください。ご不明な点がございましたら、本会の事務局までご連絡ください。



スチロール製板工作
履修中。へんそ美しく
練習中だよ!



しんりょ

進路に関する情報や活動予定などを掲載し、基本的に月1回発行しています。家庭・保護者向けの内容ですが、親子で読んで進路の参考にしていきます。

内容には、「進路の取り組み月間予定」「はたらく先輩・がんばるセンパイ」「進路にまつわる〇〇な話」その他、新しい情報などに関して必要に応じ掲載しています。

内容は、「進路の取り組み月間予定」「はたらく先輩・がんばるセンパイ」「進路にまつわる〇〇な話」その他、新しい情報などに関して必要に応じ掲載しています。

あしたをめざそう！



この『たより』は、基本的には生徒向けに発行しています。職場実習に向けての意気込みや実習の感想など、生徒たちの声を中心に編集しています。文字にはルビも振ってありますので、生徒たちが目を通して、周りのみんなはどこで実習を頑張っているのかを知ること、自分自身のイメージを育ててもらいたいです。

職場実習は学校を離れて友だちがいない中での活動ですが、この頼りを見て、みんなもがんばっているんだ！という意識を持って取り組めるといいですね。



j) 『支援センターふれあい』が主催する 学習会への参加

- 第1回 『笠取の里 見学会』
- 第2回 『にじいろたまご 見学会』
- 第3回 『センパイに聞く！こまった時どうしてる？』
- 第4回 『30才からのくらし ～家族と地域～』
- 第5回 『乳幼児期の発達のみちすじ』
- 第6回 『グループホームの生活と運営6』

※その都度センターからお知らせが出ますので
詳細はそちらをご覧ください。

④ 施設生の進路支援

施設生の進路支援は、実習挨拶や実習先への送迎、反省会、進路懇談会、ケース会議など、施設担当者の協力が欠かせなくなります。

また、多くのケースが他の生活の場や地域へ移行していく必要があるので、生活の場も働く場と同時進行で探さないといけません。その生活の場を決めるのは施設担当者の役割として進めています。これらを上手くリンクさせて見つけることは非常に困難で、多忙な施設担当者との密な連携も必要になります。それに対し、施設が運営している『入退所検討委員会』という関係機関が集まって方向性を決めていく会議は、このような難しい課題に対して効果的な話し合いの場になっています。施設と学園でしっかり協力して進めたいと思います。

⑤ 保護者と共に拓く進路

- 1) 基本的な生活の習慣を作っていく
- 2) 家庭での役割（お手伝い・買い物）
- 3) 授業参観・懇談会への参加
- 4) 福祉サービスの利用（登録・計画相談）
地域活動への参加（作業所・サークル）
- 5) チャレンジデー・チャレンジ弁当の取り組み
- 6) 余暇の過ごし方・趣味のひろがり

1) 基本的な生活の習慣を作っていく

社会へ出ると気になることが、コミュニケーション力と基本的な生活の力です。仕事に関わる力以上に個人の判断の基準にされることが多いのが実情です。あいさつ、返事、手洗い、食事、排泄、睡眠などなど、あげればきりがありませんが、少しずつでも、繰り返し習慣を作っていきたいです。

ライフキャリア

2) 家庭での役割（お手伝い・買い物）

毎日続けられることを探してみましましょう。今できることを大切にして、そこから生活の幅を広げていきます。家庭の中での役割を担うことで、責任感と継続性を伸ばします。無理せず自分から続けられることが大切です。家庭だけ、学校だけではなく、両方で足並みを揃えることがポイントです。

（施設生に関しては、ケースにもよりますが、集団生活の中で、多かれ少なかれ役割のような物があると思います。）

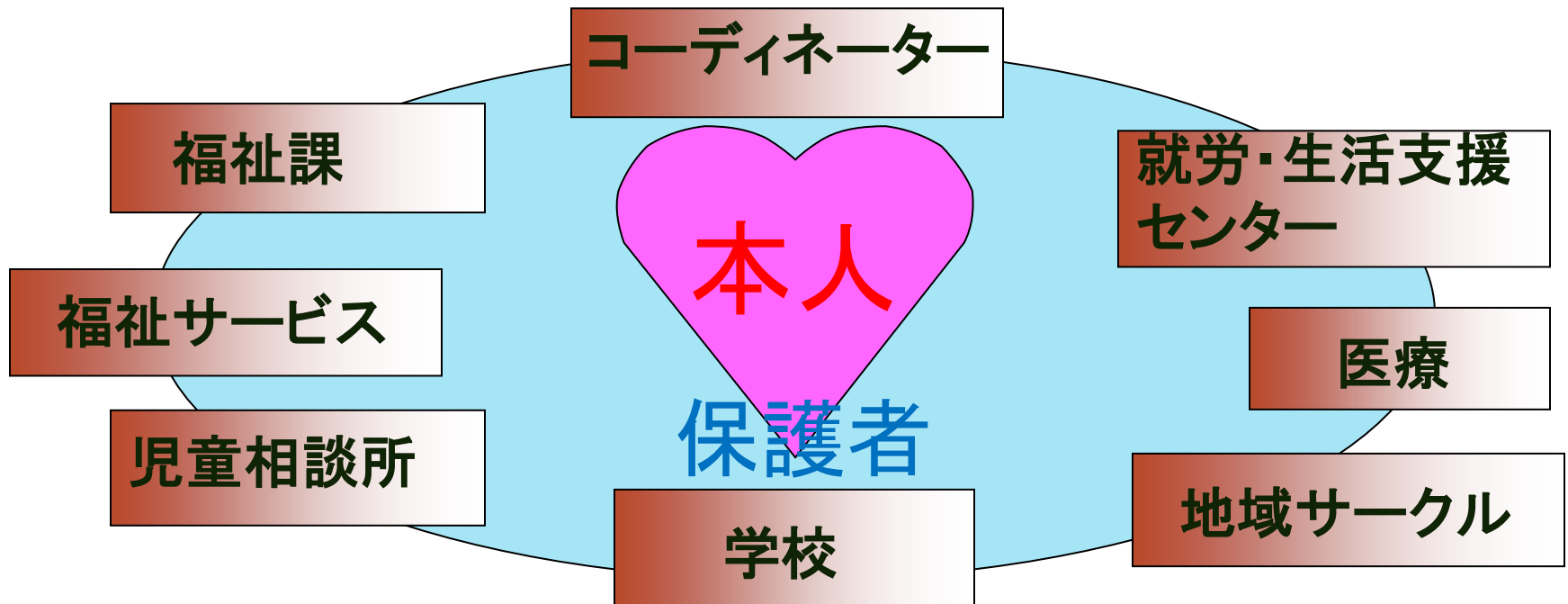
3) 授業参観・懇談会への参加

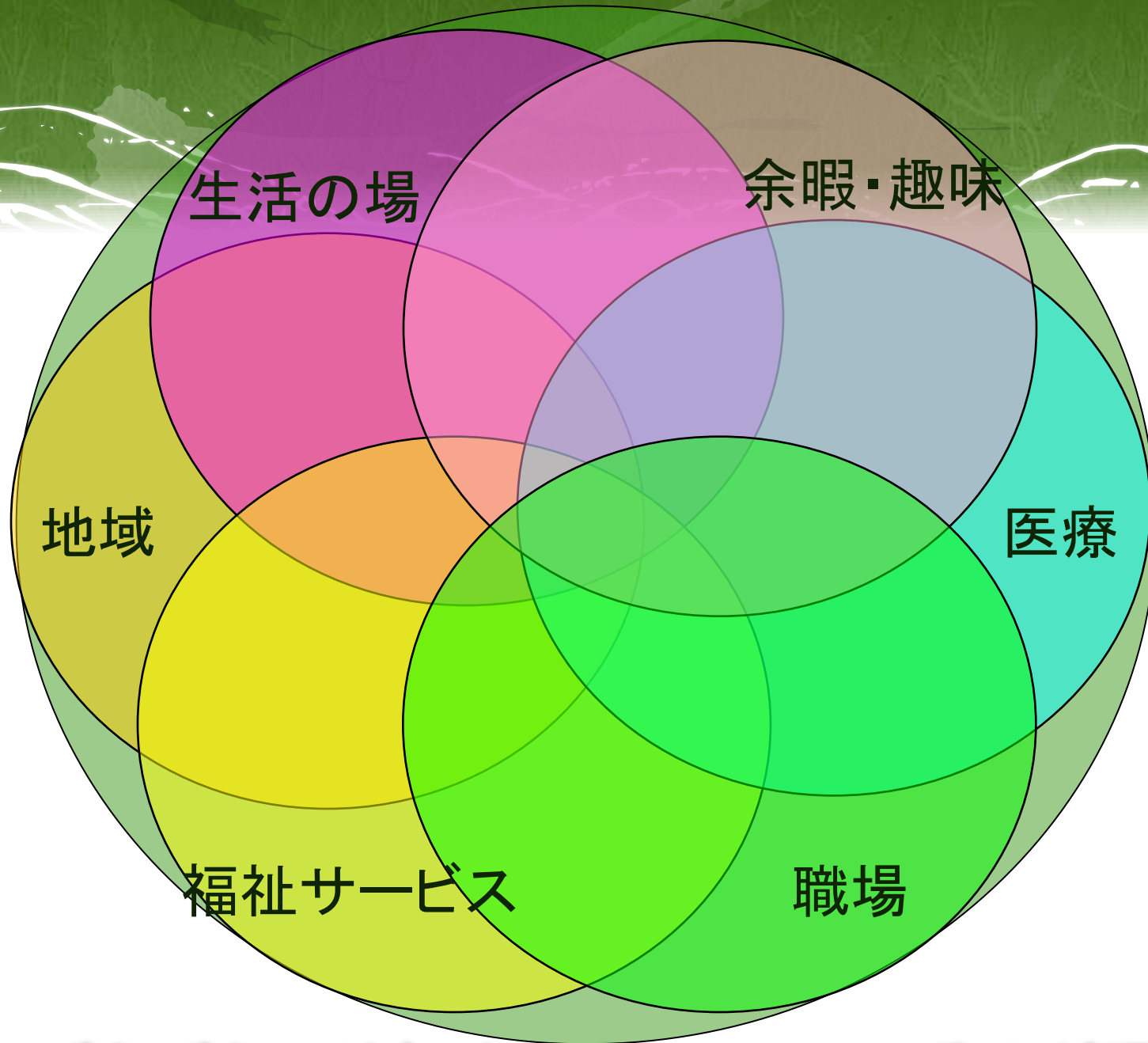
毎日の子どもの様子は、連絡帳や学部たよりでお知らせしていますが、やはり“生”で見るのが一番です。子ども自身は保護者の方が来て恥ずかしがっても、実は嬉しくて励みになっています。その親子の一体感が、将来進路を考える時の、すばらしいエネルギーにつながっていきます。後、他の保護者の経験や知識などを得る機会にもなります。

4) 福祉サービスの利用（登録・計画相談） 地域活動への参加（作業所・サークル）

まずは、家庭と学校で安定した生活を図ることをめざしますが、少しずつ活動できる場と一緒に過ごせる人や理解してもらっている人をひろげていくことが大切です。いろいろな活動を通して社会の輪をひろげていきましょう。

地域のサークル活動や親の会などに参加して、地域の情報を得たり、縦のつながりの中から将来の生活のイメージを少しずつ考えていきましょう。





※ばらばらではなく くっついているのが理想！

5) チャレンジデー・チャレンジ弁当の 取り組み

将来の社会生活や職場選択の幅をひろげる力として“公共交通機関利用に慣れる”という目的で取り組むのが『チャレンジデー』です。

将来の生活をイメージし、自分の食べるお弁当を少しでも自分で用意することが『チャレンジ弁当』です。

何かを得ようとする時は、心配事や問題が起きることはつきものです。そのリスクと向き合いながらも、将来をイメージし、今のうちからじっくり進めていきたいです。

学生時代に、自分のできることや意識をひろげていくことはとても大切なことです。

※A型事業所や一般就労は送迎はほぼありません。

6) 余暇の過ごし方・趣味のひろがり

卒業した保護者が言っていました。「社会へ出て余暇の大切さを身に染みて感じました」と。

その言葉の通り、生活の中では、働くことと同じくらい自分自身の趣味の時間の充実は大切です。

また仲間との楽しい活動に参加することも重要です。家族との活動から始まり、友だち、仲間へと広がっていきます。仕事の疲れや悩みを少しでも発散させてくれる、楽しい時間を過ごせるように、学生時代から、楽しみを見つけていきましょう。

それが、働き続ける原動力になることでしょう。

⑥その他

□ 指定特定相談支援事業所の選定と計画相談について

『平成24年4月から、就労先や住まいの所在する市町村において事業者指定を受けた事業所の中から、本人又は保護者が選択し、その事業所と計画相談を行い、支援計画を作成しないと、サービスを利用できないということになります。障がい福祉サービスを利用する前に、サービス等利用計画を作成し、一定期間ごとにモニタリングを行う等の支援を行います』その他セルフプランと呼ばれる自身で支援計画を作成する方法もあります。この場合モニタリングなどの支援はされません。

□ 相談支援事業所一覧は、県の障がい福祉課ホームページ内の『サイト内検索』に『特定相談支援』と打ち込み、検索結果の中から『特定相談支援-〇〇県』をクリックすると見られます。

□ 就労継続支援B型への就労について

- 基本的な考え方は、『特別支援学校の新卒者などの就労継続支援B型の新規利用については、就労移行支援を利用したうえでB型を利用することを原則としている』 となっています。原則としては、直接B型事業所のサービスを利用できないのです。しかし実際は、それだけの人数を受け入れるだけの移行支援事業所がないので、経過措置として、直接のB型利用が可能ということで進めてきました。
- H27年3月末までは“条件付”で直接就労可能です。条件とは、就労に関するアセスメントを行い地域の自立支援協議会などで「就B利用が適切である」と承認されることです。
- H27年度からは、短期間でもいいので、移行支援事業所での経験が必要ということになっています。例えば、実習期間に5日間地域の移行支援事業所で体験をおこなうことで、アセスメントを行い、B型が適切であると判断されれば、B型利用が可能になるという仕組みです。その際は、暫定支給決定を取ります。
 - ※20歳になり、障害基礎年金1級を支給されているケースは移行支援事業所等でのアセスメントの必要はありません。